

# 令和2年度事業報告書

熊本県天草市旭町 246-2

社会福祉法人 青豊会

理事長 洲崎 豊裕

令和2年度は全国的なコロナウィルスの影響を受け、その対応に追われる一年だった。その収束はまだ見えないものの、保育園としてできることを確実に実行してきた。

令和2年度の入園園児の状況は、令和元年度と同様に、年度当初より定員を充足し、年間を通じて、定員を上回る入所児童数で推移するなど好調な状況にあった。保護者の望む保育園像も変化し、保育園の果たすべき役割も多様化しているが、今後とも弾力的、積極的に対応していきたい。

保育の内容においては、「モンテッソーリ」保育理念に基づく保育を継続し、保護者、家庭、地域社会、保育者が一体となって保育するという目標を達成することができた。

また、延長保育、乳児保育、障害児保育、一時保育などの多様な保育ニーズにも対応している。

地域子育て支援センターについては、天草市の指導により、原則として週3日間、1日5時間の開館としているが、令和2年度は、熊本県のコロナ対応に呼応して、天草市以外の利用を制限しての事業となった。育児相談についても、来館しての相談や、電話での相談があつていて、お母さんの育児に対する不安の解消に役立っている。また、地域住民がより利用しやすいように、本戸公園や、佐伊津地区コミュニティセンターなどに出かけての、出張保育にも取り組んだ。その他の地域活動として、保育園の保護者や一般の子育て家庭を対象に行っていた、人形劇公演などの一部の事業については、コロナウィルスの拡大防止の観点から園児のみを対象として開催した。

「ふたばこども館」の整備により、育児相談、学童保育、一時保育等、ニーズの多様化への対応がより積極的に可能となる体制ができた。また、育児講座、発表会、卒園式などの会場として利用できるため、保護者にも好評である。

環境面では、園庭中央の芝生は、子どもたちの戸外活動の活発化や、転んでもケガをしにくいなどの効果が期待され、芝生化により地面からの照り返しが少なくなり、温暖化や、熱中症対策としても良い影響が考えられる。トンボなどの昆虫も多くなる等、自然環境面での効果もあった。また、夏季には、苦瓜などの栽培によるグリーンカーテンに取り組み、すだれやよしずを活用して、エアコンの利用を抑制するなどして、エコ活動にも取り組んだ。

地域との関わりでは、佐伊津地区振興会の行事等には残念ながら、参加できないことが多かった。従来行われていた地区振興会主催「佐伊津町ふるさと祭り」や町民運動会も中止となり、子どもたちも保護者も残念がっていた。

保育園の夏まつりは、園児のみの参加で小規模な夏祭りの開催となった。9月に開催した運動会は、保護者の参加応援の人数を制限し、1部、2部の入れ替え制として実施した。12月の「クリスマスおゆうぎ会」も、会場の人数を制限し、蜜を防ぎながらの開催となった。

幼保小連携活動の一環として、参加してきた小学校の相撲大会、運動会等については参加を見送った。

中学生による保育園での職場体験学習は人数を制限して受け入れた。

地域との関わりについては、保護者との連携を深めながら可能な限り今後も継続していきたい。

毎年度、保護者を対象に「一日保育士体験」事業を実施していたが、2年度は開催しなかった。「保育園における子どもの活動を見ながら、自らが保育士としての体験を通して、子育てにかかわることの幸せと、親としての役割を実感する。」ことを主な目的としている本事業は、その意義も大きいと思われ、来年度以降も可能な限り、全保護者に体験してもらおうよう継続して実施していきたい。